



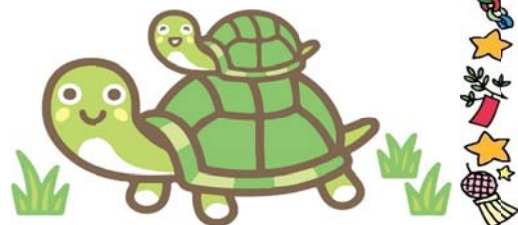
楽しい夏休みはもうすぐ。子どもたちにとっては、嬉しい・嬉しい気持ちで心高まっているのでしょうか。でも、今年の夏休みは、どうでしょう。新型コロナウイルス感染症対策のために、「3密」を避けた「新しい生活」を模索することになるのでしょうか。子ども達には思いっきり遊ばせたいですね。お出かけしたいですね。何も考えずに、今できることをさせたいですね。

1学期このようなおもいで、今、東明幼稚園・保育園に出来ることは何かを模索しながらも行ってきましたが、ほとんど出来なかったこと、職員一同悔しい思いをしました。しかし、子どもたちと一緒に遊び、学んできました。それでも、やはり、リスクを考えます。佐世保市内においては今のところ感染者の報告はありませんがしかしながら、いつ、どうなるかわからない怖い存在です。

だからこそ、私たちにできること、「うつらない、うつさない」ことを常に危機感をもって、今後の行動に気を付けていきたいものです。

今、幼稚園の玄関に「カメ」さんが、我がもの顔で泳いでいます。大雨の時、職員がを見つけました。名前は「ペロリン」です。すみれさんが付けました。子どもたちは、大喜びで、幼稚園にくるとさっそく見ています。小さい子も大好きです。よかったら見てみませんか。可愛いですよ。

幼稚園に幸せが訪れるかな？
楽しみです。



昨年度までは、保護者参観を多くとり、お誕生日会・保護者主催の夏祭りまた、すみれ組さんの「お泊り保育」など、楽しいことが沢山あり子供たちも、保護者の皆さんも多数参加していただいております。しかし、今年度は申しわけないほど、参観を見合わせて頂いております。2学期、幼稚園・保育園にとって何が出来るのか。何をしなければならないのか。職員同士十分に話し合いながら、ベストな生活が、子どもも、保育士も、保護者の皆さまもおくれるように持っていきたいと考えております。ただ、今後の情勢を鑑みながら物事を進めてまいります。



「大河の一滴」の帯より

もう覚悟をきめるしかない。

人生は苦しみと絶望の連続。地獄は今ここにある。その覚悟が定まったとき、真の生きる勇気が訪れてくる。ブッダも親鸞も究極のマイナス思考から出発した。先行きが見えない時代。絶望の底に光はある

この「大河の一滴」のなかに、次のような文章があります。

南極などの極地では、生活を我慢しなければならないことがある。こんな時、辛抱強く、最後まで自分を見失わずに堪えぬくことが出来るのか。

南極などでは、人間は無精になるし体裁など構うこともない。身だしなみなど考えない。ところが、なかには、朝起きると顔を洗って髭をそり、服装を整えて、顔をあわせると「おはよう」と挨拶し、物を食べる時は「いただきます」と言う人がいる。こうゆう社会的なマナーを身につけた人が意外にしぶとく強く、厳しい生活環境の中で最後まで弱音を吐かなかった、ということです。

礼儀、身だしなみなどが極限のなかで、何の役に立つのかと思いがちですが、実際には「おはよう」「ありがとう」と挨拶ができる人、身だしなみに気を付けながら、他人との礼儀を忘れない人が、屈強な大男より最後まで頑張って弱音を吐かない。このことは、どうゆうことを私たちに教えてくれているのでしょうか。